

第1回香取地区地域協議会 記録

- 1 日 時 令和6年1月11日（木） 午後2時から午後4時まで
- 2 場 所 北総教育事務所香取分室 大会議室
- 3 出席者 14名／14名
- 4 概 要

（1）座長の選出

座長に筑紫委員を選出

（2）地域協議会設置の趣旨

地域協議会設置の趣旨について事務局より説明

【座 長】

ただいまの説明について、質問や確認事項があれば是非お願いしたいがいか。特になければ、次の議題に移る。

（3）「県立高校改革推進プラン」及び「第1次実施プログラム」について

資料3「県立高校改革推進プラン及び第1次実施プログラムについて」に基づき、同プラン及び同プログラムの内容について事務局より説明

【座 長】

事務局からの「プラン」及び「プログラム」の説明について、質問や資料の確認などあればお願いしたいがいか。

【委 員】

私は行政の人間であり、学校のことについてほとんど無知であるため、見当違いであれば申し訳ないと思う。

行政での業務としては、公共交通や移住定住、地域人口減の対策に取り組んでいる。香取市において、市民の足である路線バスやコミュニティバスでは、「2024年問題」とされる運転手不足が生じている。公共交通は市民のものであり、特に、交通弱者といわれる、お年寄りや免許を持たない子供たちにとっては、大変な問題である。小・中学校に通学する生徒のために、スクールバスを運行させている地域もあるが、高校生は、通学のための手段が無いことで、進路先が限定されてしまうと、将来の選択肢にも大きく関わってくると考える。通学のための手段が無いことで、高校生が希望する進学先を諦めることがないようにするなど、公共交通の観点からの議論も必要になるのではないかと。

【座 長】

人口減少に関しては、どの市町でも大きな問題だと思う。それに対して、県立高校だけでなく、行政や地域が一体となってより良い方向になるような意見が出せればと思う。また、この協議会の趣旨でもあると思う。

他にいか。

【委 員】

私の方は、行政という立場で参加させていただいている。高校の学区について知識がない。今後、考えていくうえでの参考に教えていただきたい。

千葉県内には学区が9つあるが、学区というのはどのようなものであるか、どのような形で学区の位置が決定したのか。中学生が高校を選択する際に、学区の影響はあるのか。参考までに教えていただきたい。

《事務局》

現在、学区が9つあるが、元々はより細かく学区があったが、徐々に広がり今の形になっている。第

5学区では、銚子市、香取市、匝瑳市、旭市、神崎町、東庄町、多古町となっており、細分化した形で今回、香取地区地域協議会を開催したところである。

なお、入試に関しては、女子校を除く全日制普通科では第5学区在住の生徒は、第5学区に所在する県立高校だけでなく、隣接する学区である第4学区と第6学区に所在する県立高校を志願することが可能である。

ただ、女子校や、総合学科、専門学科、その他の課程に関しては、全県一区となっており県内どこからでも志願することが可能となっている。基本的には、学区はこのような志願に関してのとらえ方になっている。

また、全国を調べると、学区がない県もある。学区がある千葉県では、中学生にとってどのような影響があるかという点、志願できる県立高校が制限される。そのため、学区を廃止する意見もある。しかし、学区がなくなると都市部への流出が増加し、地元へ残らなくなってしまうという懸念もある。

他にも、先ほど交通に関する御意見を頂戴したが、私立高校では駅からスクールバスを出している学校が多くある。県立高校もそういったことに関しても考えなければならない。

【委員】

承知した。

【委員】

(4) 香取地区の県立高校の現状と課題

資料4「香取地区地域協議会 基礎資料」に基づき、香取地区の県立高校の現状と課題について、また、参考7「地区内の県立高校の学校案内」を基に、各校の魅力ある取組や教育活動を事務局より説明

【座長】

事務局から「香取地区の県立高校の現状と課題」について説明していただいた。

人口の減少に関しては、非常にリアルである。また、その中で各学校の取組等を御紹介していただいた。御確認いただいて質問や資料の確認などあればお願いしたいがいかがか。

【委員】

資料4の14ページについて、第5学区から見て第4学区へ流出する生徒が一定数いると思うが、どうか。

【座長】

互いの学区への流出入がある中で差し引いた形で表示された数値ではないか。第4学区と第5学区では第4学区への流入よりも、第5学区への流入の方が74名多くなっていることと考えるが、事務局どうか。

《事務局》

そのとおりである。

【委員】

承知した。

【委員】

学校案内を御覧いただいたと思うが、多古高校について補足説明させていただく。

他の高校と違い、最寄り駅がないため、バスを利用して学校に通うことになる。また、路線の廃止に伴い、生徒の減少に拍車をかけている所である。また、全校生徒の3割程度が保護者送迎で登下校しており、バイク通学も60名程度許可をしている。そうでないと登下校の交通手段がなくなってしまう。

園芸科は全県一区であるが、生徒募集に苦しんでいる状況にある。また、普通科に関しても他の地域から来るには位置的に難しいため、地元頼みになってしまうのが現状である。

また、他の3校と違うところでいうと、地域と共同して学校を運営していく制度である「コミュニテ

ィ・スクール」を千葉県で最初に導入し、今年で12年目になる。千葉県でも地域との連携を深めるように推進しているが、そういった意味では先進的な学校である。多古町からも様々な支援をいただいております、これだけ外部の方と協力している学校は他にはないと思う。

人口減少が進む中で、地域と一体となった取組はこれから増えていくと考える。

【座長】

「コミュニティ・スクール」に関して、生じる効果や導入する利点などあれば教えていただきたいがいかがか。

【委員】

小規模校では職員の数も少ないため、生徒を指導する上でマンパワーが必要になるときに、地域の方にお手伝いいただくのは職員にとって大変良いことである。また、生徒にとっても、こども園や小中学校、地域のイベントなどに生徒が参加することで、主体的に行動することができるいい機会になっている。

(5) 質疑

【座長】

ここまで、所定の議事について進めてきたが、全体を通じて質問があれば伺うがいかがか。

【委員】

質問ではないが、せっかくの機会なので、中学校の現状を御説明させていただきたい。個人的には、適正規模・適正配置に関しては、進めていただきたいと思っている。この地区は当然応援しているが、客観的に見て適正規模・適正配置は必要であると考え。先ほど事務局より説明があったが、この地区に限らず入試の倍率が1倍を切っている。中学校現場で生徒とその保護者は受け入れられるという意識になっている。

学力に差がある中で、入学しても高校生活が苦しくなってしまうと予想される。また、そこを含めて進路指導をしているが、生徒とその保護者に対して昔ほど強く言えない状況もあるため、適切な進路指導がしにくい現状である。

また、各高校に魅力をもっていただきたいと感じており、いくら近い高校でも、魅力がないと中学生は離れていってしまうのを現場で感じてきた。

他にも私立高校についても考える必要がある。施設・設備面では公立高校は厳しいところもあり、部活動等を目的に他の地区や県をまたいで私立高校へ進学する生徒もいる。その辺も含めた上で、色々と検討していただけると、中学校としてはありがたいと考えている。

(6) その他

【座長】

他になければ次に進む。その他、議事はないか。

(意見なし)

特になければ、今日の内容を振り返ると、地域協議会設置の趣旨、県立高校改革推進プラン及び第1次実施プログラムについて、県立高校の現状と課題について、事務局からの説明により、情報共有ができた。

今後、少子化で子供の数は確実に減っていき、この地区においても例外ではないこと。もう一つは地区内においても適正規模を下回っている学校がいくつかあること。こういったことを踏まえて、地元として県立高校の将来をどのように考えるか、また県立高校だけでは良い方策が出ないと思うので、小中学校の状況や、街づくりにおける県立高校の在り方などを含めて、市町はどうにかかわっていけるか。厳しい状況の中ではあるが、知恵を出し合って新たな展開にもっていけるチャンスでもある。そういった視点で今後、議論を重ねていけないかと思うが、事務局いかがか。

《 事務局 》

県立高校の在り方については、市町の街づくりの方向性や小中学校の将来計画とも密接に関連していると考えている。そこで、市役所・町役場から選出された委員の方には、今後の街づくり計画や地域活性化に向けた対策について、市町の教育委員会から選出された委員の方に、市町の小中学校の将来計画について御説明いただき、このことも踏まえて第2回では議論をお願いしたいと思う。

【 座 長 】

ただいま事務局より、市町の行政及び教育委員会からの説明を踏まえて、次回協議をしていただいたとの提案がありましたが、いかがか。

(意見なし)

では、市町の行政機関及び教育委員会については、次回の協議会にて、御説明をお願いする。そのうえで県立高校の在り方委について次回、議論を深めたいと思う。

【 座 長 】

その他、議事はないか。

(意見なし)

ないようなので、進行を事務局にお返しする。

第2回香取地区地域協議会 記録

- 1 日 時 令和6年2月2日（金） 午後2時から午後4時まで
- 2 場 所 北総教育事務所香取分室 大会議室
- 3 出席者 11名／14名
- 4 概 要

（1）第1回香取地区地域協議会の記録（案）について

委員に確認し、承認

（2）香取地区における県立高校の在り方について

資料1「再編内容及びその評価について（小見川高校）」、資料2「再編内容及びその評価について（多古高校）」、資料3「再編内容及びその評価について（佐原白楊高校・佐原高校）」に基づき、香取地区の県立高校4校の過去に実施した再編の成果と課題について事務局より説明

【座 長】

ただいまの事務局からの説明について、何か質問等はあるか。また、多古高校のコミュニティ・スクールについては、前回も御説明いただいたところだが、補足等はあるか。

【委 員】

前回もコミュニティ・スクールについては説明したところである。また、このあと多古町の方からコミュニティ・スクールとして、町との取組について説明もあるため、その中で補足するようなことがあれば、発言したいと思う。

他の学校についても、よくこの地区の校長と話し合う機会があり、色々な話題も出てきている。私の知っていることであれば、答えようと思う。

【座 長】

承知した。小見川高校の医療コースが令和6年度から始まるとのことだが、福祉コースを設置した成果を踏まえた上で、医療コースを設置するということなのか。

《事務局》

その通りである。医療コースについては、福祉コースと同様に近隣の関係機関と連携することで、体験的な学習ができるといったことが期待できる。また、看護師だけではなく、作業療法士や臨床検査技師など様々な職業に目を向けることで、幅広い進路選択ができる。こういったことを期待して小見川高校に医療コースを設置した次第である。

【座 長】

承知した。福祉コースで培った連携のノウハウを参考にして、医療コースでも地域との連携を強化していけるという意図もあるのか。

《事務局》

その通りである。医療や福祉については授業等だけで理解することが難しいため、関係機関との連携が重要になってくる。また、連携のノウハウがあることも大切であると考える。

前回配付した資料に記載されているが、福祉コースに関しては、地域のバランスを考慮して設置したところである。参考までに、松戸向陽高校に関しては、県内唯一の福祉教養科という学科を有している。

【座 長】

コースの定員は何名なのか。

《事務局》

医療コースに関しては、令和6年度設置ではあるが、2年生からコース選択をすることになる。現在、準備委員会を立ち上げて、定員の人数などを検討しているところである。

また、他のコースについては、定員を設けず希望者全員を受け入れるコースもあれば、施設や設備等の関係で定員を設けて運用しているコースもある。

【座 長】

他にあるか。小見川高校の福祉コースや医療コースが設置されることに対して、教育機関ではない委員の方はどう考えるか。

【委 員】

福祉においては、介護事業所等の人材は現場で不足している実態がある。福祉関係に興味がある生徒は、こういったコースがあれば選択すると思う。人材不足の解消に繋がる一つになるのではないか。

【座 長】

こういった学びが地域の人材の供給源になると良い。多古高校の園芸科については、地域との繋がり等はどうか。

【委 員】

昔は、農業科と園芸科の2つの学科があった。そこから生産流通科の1つになり、農場も縮小したという経緯がある。今の園芸科では、多古町の学校給食に収穫した食材を提供することや、栽培した草花をハンギングバスケットにして、街中に飾りつけをしている。また、小・中学生に対して、草花の寄せ植え体験を実施するなど、非常に地域に根差した学科であると感じている。

【座 長】

農業科としての長い歴史がある中で、園芸科を卒業した生徒の就職先についてはどうか。

【委 員】

元々は、町立の多古農学校であり、以前は畜産も行っていた。園芸科を卒業して就農する生徒は毎年数人程度であり、残念なところである。また、県内の農業関係高校の校長と話す機会があるが、どの学校でも生徒募集に苦慮しているのが現状である。就農に関しても、農協と協力をして何とか就農を増やしていこうとしている。この地域だけの問題ではなく、県全体の問題である。

【座 長】

佐原白楊高校は20年程前に共学化をしているが、現在において、共学化したことによる地域への影響はどのようなものがあるか。分かる範囲で教えてもらいたい。

【委 員】

共学化については、非常に良かったと思う。共学化に加え、校名も変更になったことで、インパクトのある学校となった。また、定着して良かったと感じている。

【座 長】

他にいかがか。

【委 員】

香取地区は観光の資源が豊富な地域である。佐原は昔と比べ、大きく変わってきている。県の方針でもキャリア教育を踏まえた学びを市原や銚子等の高校に設置されているが、是非、香取地区の高校に観光に関するコースの設置をと思っている。國學院大学が佐原の観光まちづくりを参考にしており、協力した経緯もある。また、他の大学も視察に来ている。そういった意味でも観光のコースがあると良いと思っている。

【座 長】

ただいま、観光に関するコースについて発言があったが、事務局どうか。

《事務局》

令和6年度から一宮商業高校に観光に関するコースを設置するところである。また、観光・環境・防災に関する教育としては、市原八幡高校に防災の学び、市原高校に緑地管理コース、館山総合高校に栽

培環境コースと観光の学び、銚子高校に防災の学び、銚子商業高校に海洋環境コースの5校にその地域の資源等を活用したコースや学びを設置している。

一宮商業高校の観光に関するコースについては、近隣に所在する観光施設や宿泊施設、商工会議所及び大学等との連携や、観光アプリの開発を通して、観光教育の充実を図っていこうと考えている所である。

【座 長】

確かに、こういった学びの中で人材が育つのであれば、この地域にも観光のコースがあれば活かしていけるのかもしれない。

《事務局》

今後、成田空港の滑走路の拡張から、外国人の集客が見込まれることから、成田や佐原の地域に国際空港や観光の学びがあると良いと思う。

【座 長】

他にいかがか。なければ、前回事務局から提案があった通り、市町の今後のまちづくりの方向性や、小・中学校の将来計画について説明いただきたいと思う。では、県立高校が所在する香取市、多古町から御説明いただきたい。初めに多古町からお願いしたい。

【委 員】

多古町の今後のまちづくりの方向性と多古高校との取組について説明したいと思う。まちづくりの方向性については、「成田国際空港の更なる機能強化」及び「首都圏中央連絡自動車道（大栄 JCT～松尾横芝 IC 間）の開通」による波及効果を最大限に活かしたまちづくりを進めるため、交通アクセスの強化をはじめ、新たな地域経済活性化拠点の整備による交流人口の増加を目指している。

また、子育て支援策の更なる充実や町の基盤産業でもある農業振興、インバウンド対策を視野に入れた観光振興の促進、更には、空き家対策や子育て支援住宅の整備、移住・定住施策の促進など町の人口増加に努めているところである。

成田空港が開港して何十年と経つが、空港の東側の地域と西側の地域で発展に大きな差があるのが現実である。西側においては、東京方面ということで生かすことができている。多古町をはじめ東側にある地域においては、今まで厳しい状況であった。今後、波及効果を十分に生かした政策を他の自治体と連携しながら進めていく。

多古高校については、キャリア教育推進地域指定校やコミュニティ・スクール指定校としての取組として、小・中学校や各地域と連携した事業を進めている。行政に関しては、まちづくり事業への参加・協力の中で、若者世代の意見集約や各種会議・計画策定委員へ参加してもらうなど、行事への参加を含めて高校生の活躍が町にとって大きな力となっている。こういった中で、町からは多古高校の後援会を通じて学校振興助成金として、特別教育活動振興費と特別教育振興費という名目で150万円の資金援助を行い、活用してもらっている。

多古高校は100年を超える歴史のある多古町唯一の高校である。町の中学生の進学先は多古高校だけではないが、多古町の小・中学生が多古高校の生徒との繋がりを持つのは非常に重要であり、素晴らしいことである。昔は、1学年200～300名であったが、現在は120名定員であり、今年の入学生はそのほぼ半数という現実もある。当然、生徒一人一人に目が行き届くことは良いことであるが、高校生の町を歩く姿の数が増えるだけでも町の賑わいも変わってくると感じている。空港圏として、将来の町の発展、地域の活性化には、高校生はもちろん多古高校の存在は欠かせない。また、空港の更なる機能強化より空港の従業員数は現在の36,000人から70,000人に増加すると言われている。雇用供給の確保を含め、学校を核とした人づくり、地域づくりによる地方創生の実現に高校の存在は不可欠であると感じている。それらの効果を一層高めるためにも、特色ある高校づくりを是非進めていただきたいと思っている。

前回、説明の中で共通性と多様性という言葉があった。具体的なことはわからないが、共通性はどこの高校に行っても同じ教育を受けられることが共通性で、各地域に所在し、その地域の特色のある高校を子供たちが選択できることが多様性でもあると思う。話は戻るが、空港の東側と西側で発展の差がでてしまったが、空港の更なる機能強化で東側の地区の可能性が高まるため、西側の地区に負けられないような魅力ある高校づくりをしていただきたいと考えている。

参考資料として、多古町総合計画の中で、多古高校との関わりについての記載がある部分を抜粋してきた。また、行政に関わらず、多古高校と地域との繋がりの中で、様々な取組を行っている。広報紙の「広報たこ」について記事を抜粋してきたので、御覧いただき多古町と高校との繋がりを感じていただけたらと思っている。

【座 長】

多古町については、行政や地域と高校の繋がりが深いということが分かった。また、行政としても高校への支援の方針も伺うことができた。

次に、香取市においては、本日欠席である。香取市の説明について、事務局から何かあるか。

《事務局》

香取市よりまちづくり計画について御意見いただいている。事務局より代読させていただく。

香取市では、まちづくりの指針となる第2次香取市総合計画後期基本計画（計画期間5年間）を令和5年3月に策定した。計画では、人口減少、少子高齢化及び過疎対策を重点プロジェクトに位置付け、様々な取組を実施している。なお、計画策定にあたっては、中学生・高校生アンケートや、高校生から80代まで幅広い世代が参加したワークショップ「かとりみらい会議」などを通じて、「市民の声」を計画に反映した。また、平成26年度から香取市佐原の伝統的建造物群保存地区の回遊性向上を目的として、市所有の空き家を改修した「さわらぼ」を活用している。この「さわらぼ」とは、さわらとラボラトリー（実験室）を掛け合わせた造語である。

「さわらぼ」は、「高校生のまちなかの居場所」、「佐原のまちづくりの拠点」、「観光客と住民の接点」の3つを活用方針としており、その担い手として佐原高校、佐原白楊高校の生徒が展示やイベントの開催等、運営に携わっている。このことにより、「さわらぼ」は高校生の自主性の発揮とまちへの愛着を醸成する場となっている。

以上である。

【座 長】

ただいま香取市の説明について事務局の方から代読してもらった。委員の方で補足等はあるか。

なければ、県立高校が所在する市町委員の方から御説明について何か質問あるか。

一つ質問したいが、多古町総合計画を拝見したが、ICTの活用については今後どういった計画を考えているのかお答えできる範囲で教えて欲しい。今後見込まれる日本の人口減少を補うため、IT化の推進という観点では、通信インフラの充実やロボットの活用が国の大きな方針となっている。通信規格が4Gから5Gに変わったことで通信速度や通信精度が上がるため、様々なことができるようになる。例えば、前回委員の方から発言があった運転手不足については、無人バスを試験的に実証実験が行われている。また、畑を無人トラクターで耕す実験の取組を行っているところもある。こういったICTを活用した取組を多古町として何か計画があれば教えて欲しい。

【委 員】

ICTの活用は日本全体の話だと思う。行政分野では、昨年からDX推進系の職員を配置し、行政全体のデジタル化や行政手続きの簡素化という点において、ICTの活用に取り組んでいるところである。どこの自治体も取組を始めており、先進的な自治体があれば参考にして、理想としては追い越したい。いずれにせよ、ICTの活用の取組はこれからも続いていくと思う。

【 委 員 】

教育の分野については、国の GIGA スクール構想に向けて推進しているところである。多古町の小・中学校についても電子黒板等を活用して ICT 教育を進めている。県の指導をいただきながら、ICT の機器を 1 つのツールとして主体的・対話的で深い学びや自ら考え自ら学ぶことを目指して取り組んでいる。

【 座 長 】

多古高校は、地域と連携した取組をしており、若い世代の人の方が ICT を簡単に使いこなしている。今までは、どちらかというと地域の取組に、高校生が関わり交流することが多いと思うが、ICT の活用という部分では、高校生から地域の方に ICT 機器について教える取組といったような双方向の交流ができるとより良いと思う。

また、成田空港の拡張に伴い、雇用が創出される。コロナの影響もあり、空港内において ICT の活用により人と接触しない手続き等が一般的になった。そういった中で、多古町から空港の人材を輩出するという点では多古町として ICT の活用の支援をすることで多古高校の魅力も上がるのではないかと。

他にいかがか。

では次に、小中学校の将来計画について、各市町の教育委員会の方から御説明いただきたい。では、香取市教育委員会から説明をお願いしたい。

【 委 員 】

小・中学校の将来計画について、香取市の小中学校の配置計画について申し上げる。本市では、香取市学校等適正配置計画、プランを平成 22 年度に策定し、少子化による児童数生徒数の減少に対処するための学校再編案を示した。平成 18 年 3 月、香取市として合併した当初には、小学校は分校を含め 27 校、中学校は 8 校あったが、この計画では、平成 22 年度から令和 2 年度までの期間で、小学校を 16 校にするものである。その後、更に進む児童数・生徒数の減少により、平成 27 年度に当該実施プランの見直しを行い、第一次改定版を策定した。この計画では、平成 27 年度から令和 7 年度までの期間で、小学校を 14 校に、中学校を 5 校にするものである。

第一次改定版から 7 年が経過し、更に進む児童数・生徒数の減少に伴う学校の小規模化に対応するとともに、現在の変化の激しい社会を生きぬくためには、小・中学校時代に可能な限り多くの人と関わり、多くの価値観や考え方に接することが重要であることから、再度、実施プランの見直しを行い、令和 4 年度に第二次改訂版を策定したところである。今後はこの第二次改訂版に沿って、小中学校の再編を進めていくこととなる。

第二次改訂版の主な内容は、再編計画の期間を令和 4 年度から令和 13 年度までの 10 年間とし、児童数・生徒数の推計を更新し、新たに将来的な学校配置の想定を追加した。第二次改訂版策定にあたり、香取市の児童数・生徒数について、令和 2 年度に生まれた子供が小学生となる令和 9 年度と第二次改訂版策定開始年度の令和 3 年度の児童数・生徒数を比較したところ、小学校では 637 人の減、中学校では 263 人の減となっている。

学校等適正配置の基本指針については、第一次改訂版を踏襲しており、「教育の充実」、「教育環境の公平性の確保」、「学校運営の効率化と教育資源の有効活用」を掲げている。許容できる小学校の下限として、教育の機会均等のため、学校再編は必要であると考えており、小規模校の下限は、小学校は児童数が 120 人を超える程度、中学校では、クラス替えができる各学年 2 学級の合計 6 学級以上としている。

学校再編の基準と考え方については、許容規模に基づく学校再編、複式学級の解消を最優先課題として考えており、小中連携教育の推進、既存学校施設の有効活用、統合に伴う通学方法の検討（スクールバス等の通学手段の検討）としている。市民協働による学校再編を原則としており、再編統合は、保護者はもとより、地域の方々の理解を得ながら推進しているところである。

会議としては、地域検討会議、代表者会議、準備委員会という統合の進捗による 3 段階の会議を行い、

地域の方々の要望や意見を聞きながら進めている。最後に香取市の令和5年度現在の小・中学校数を申し上げる。小学校が15校で、香取市合併当初と比較して12校の減、中学校が7校で1校の減となっている。

【座長】

次に、神崎町教育員会御説明いただきたい。

【委員】

本町については、2つの小学校、1つの中学校のみとなっております。本町に高校は公立も私立もない。対象生徒のほとんどが、第4学区、第5学区の高校へと進学をしている状況である。今年度、現時点では、私立高校については、受検対象者が39名のうち7名が単願志望となっており、以前に比べると私立志向の生徒も増えてきているという実態がある。

高校との繋がりとしては、昨年度に佐原白楊高校と神崎町の小・中学校とで福祉教育研究大会実践発表を開催した。3年間の福祉教育という中で取り組んできた内容を発表した。高校生を中心にグループワークなどを行って、児童生徒の交流を深めるよい機会となった。また、今年度は神崎中学校の吹奏楽部が、佐原高校吹奏楽部と町のイベントへの参加のために合同練習をするという、中学生にしてみれば、貴重な高校生とのふれあいの場を設けることができた。学校見学以外で、高校の校舎に入って、一定の時間、高校生と一緒に練習ができたことで、「この高校へ行きたい。」という思いを持った生徒も実際にいたと聞いている。

以上のことから、様々なきっかけを作り、高校の校舎に生徒や保護者が、文化祭以外で見学や高校生とのコミュニケーションが図れるような場があるといいのではないかなと思っている。今月も社会教育の授業で、近隣の高校生が神崎町に部活単位で来ていただき、色々なパフォーマンスを披露してもらうという行事があった。そこで、この高校に通っている生徒や先輩について知ることができ、生徒の様子というのは町内にいても感じる機会はあると思うが、施設を見ていく機会というのは、行政が段取りをして学校と調整したりする必要があるのではないかと、検討委員会に参加すると思うところである。

【座長】

次に、東庄町教育委員会御説明いただきたい。

【委員】

東庄町は、令和2年4月に町内5つの小学校を統廃合して1校としたことで、1小学校1中学校となった。児童生徒数の今後の推移は増える要素はなく、令和11年度までの小学校入学者数をみると、年平均で9%程度減少していき、令和11年度以降は、1学年50人を下回ると予想される。

施設面では、今年度、中学校校舎の長寿命化を図る大規模改修を実施しており、今後20年程度の教育環境維持を想定している。また、小学校においても令和元年度に、20年程度の教育環境維持を想定した長寿命化のための大規模改修を実施し、約20年後が小中学校施設の1つの節目ととらえている。

今後、15年後頃を目安に、子どもの数と町財政状況を見極めながら、小・中学校のあり方を検討する必要があると考えているところである。本町の生徒が通っている県立高校は、近隣では、香取市、銚子市、旭市、匝瑳市にある学校であり、多くの選択肢を持つ状況である。

少子化に伴う高校の再編は必要と思うが、本町としては、今後も各高校がより特色のある魅力を持った学校として存続していくと望む。また、本町は現在、高校と連携した取り組みはないが、令和6年度から令和8年度までの3年間、千葉県から福祉教育推進校の指定を受けたところで、小・中学校、高等学校と連携した福祉教育を行う予定となっている。本町には高等学校がないため、近隣市内の高等学校に協力をお願いし、町福祉社会福祉協議会と一緒に福祉活動を実践していく予定である。

【座長】

では、次に多古町教育委員会御説明いただきたい。

【 委 員 】

小中学校の将来の計画、高校教育との関連した取組等について説明させていただく。今年度、教育委員会では多古町における児童生徒数の推移を踏まえて、小・中学校の将来を展望した学校のあり方について、幅広い見地から検討し、方向性を見出すため、学校の適正規模、適正配置等について協議し、教育委員会の提言書を取りまとめているところである。

協議の内容については、児童生徒数の減少等の問題だけではなく、学校現場の現状と課題を洗い出して、当面及び中長期的な課題の整理を行い、いろいろな角度から協議し方向性を提言書としてまとめているものである。

次に、先ほど多古高校の校長先生からもありましたが、高校との関連した取組として、多古町では、子供たちが将来、社会の中で自分の役割を果たして、自分らしい生き方を実現するために、力を身につけるキャリア教育を進めている。そのキャリア教育の一環として、多古高校と小・中学校の交流を通じて事業を進めているところである。

事例としては、多古高校の園芸科と連携した花植体験や、小学校の外国語の時間に、多古高校の生徒が訪問していただき、授業に協力していただいている。また、今年新たな取り組みとして、学校給食において、多古高校の園芸科の生徒が生産した米や野菜、多古町の食材を使用して、多古高校の家政部の生徒が献立を考案し、小・中学校、こども園に給食を提供していただいた。あわせて、多古高校の生徒が、小中学校に訪問し、一緒に給食を食べる交流を行った。多古高校の特色を生かした事業、小学校、中学校、高校の交流事業については、今後も多古高校と連携して、継続していけたらと考えている。

【 座 長 】

ただいま、各市町の教育委員会の委員の方々から御説明をいただいた。香取市では、人口減少に合わせて、どのような配慮をするかといった御苦労が見られた気がします。

神崎町からは、高校生徒の交流が必要であるという御意見をいただいた。東庄町では、多くの選択肢を残してほしいと御要望があった。多古町では、小・中学校と高校の交流している様子の御説明いただいた。各委員から質問があれば御発言いただきたい。

また、小・中学校等の交流ということで、資料を御用意いただいた。御説明いただきたい。

【 委 員 】

多古町近隣中学校駅伝大会である。第64回という大変伝統のある大会であり、1月の最終土曜日に行われた。駅伝大会実行委員会、多古ライオンズクラブ、多古町スポーツ協会が主催するものである。

多古町教育委員会が共催しており、資料に記載はないが、多古高校の陸上部のOBで形成された陸友会においても、協力して大会を行っているところである。最初の設立当時は、多古高校に近隣の中学校から有望な陸上選手に入学してもらいたいという趣旨のもとで始まった大会である。伝統もあり、現在は実行委員会の主催という形になっている。

香取郡だけでなく様々な地域から集まってくいただき、盛大に開かれている大会である。今回の会議の趣旨に沿うかわからないが、コミュニティ・スクールの話もあるが、地域全体で盛り上げている大会である。また、農協としても、多古米を参加賞にしており、多古米をアピールするような機会にもなっている。

【 座 長 】

実際、この交流をやっていてよかった点はどんなところか。

【 委 員 】

歴史が長いので、高校駅伝で活躍したり、箱根駅伝に出場した選手もいる。そのような話題づくりになっていると思う。保護者も応援にきており、道の駅の周りのコースを走るため、多古の魅力を発信する良い機会になっているのではないかと感じている。

【座 長】

それでは、事務局及び市町から今までの説明を踏まえて、香取地区における県立高校のあり方について、色々な視点から御協議いただければと思う。目的として、香取地区に所在する県立高校がより魅力的になるためにどのような学びが必要であるか、香取地区の地域社会や地域産業を担う人材育成のために、必要とされる学びにはどのようなものがあるのか。という観点で御意見をいただきたいと思うが、いかがか。

発言が難しいと思うが、保護者の立場から、どういうものを求めているかという点で、お考えをお聞かせいただきたい。

【委 員】

保護者として、大きな問題は通学に関することであると思う。前回の協議会に出席し、地域格差があると感じた。この地域から、都市部の県立高校には希望してもいけない。住んでいる場所によって、選択肢が限定されることも問題である。簡単にできることではないと理解はしているが、例えば、進学に特化したクラスなど、各学校で学びや進路に対応できる幅を広げてほしいと思う。

また、子供が高校を選択する際に、中学校の先生と親が多く関わると思うが、親は自分自身の経験しかない。そのため、我々が高校受験する際は、学校の特色等ではなく、学力で行ける場所を選択するという感覚が強かった。各学校では、特色を持った様々な取組を行っていることが、この協議会に出席して、知ることができた。もちろん、インターネット等で調べ、各学校の特色を知っている方もいると思うが、私のような親も多いと思う。また、自分自身が高校を受験したような感覚で話をする親も多いと思う。中学校の先生が、高校の取組をどのように紹介しているかによっても、高校の選び方が変わってくると思う。

【座 長】

確かに、人生は一度であり、中学生やその保護者にとっても、基本的に通える高校は1校だけである。親御さんも含め、各学校の現状を知ってもらう機会があればよい。各高校が特色ある取組を行っているが、中学生やその保護者に浸透してないようなところもあり、そこを上手く浸透できるようになればよい。

【委 員】

単純な学力で並べて自分自身に合った高校を選ぶ感覚がある。そういう部分はもちろん必要であるが、高校の在り方としては、県が示しているように変わってきている。あとは、通いやすさ。デメリットもあると思うが、多古高校のように原動機付自転車を使用できるなど工夫が必要である。

【座 長】

確かに、通学手段というのは高校を選択する上で、大きなウェイトを占めるというのが現実問題としてある。

【委 員】

自宅から駅まで遠いため車で送迎する必要がある。また、電車を逃したら1時間程かけて学校まで送っていかねばならない。共働きでかなり厳しい現状である。原動機付自転車で通学と言っても、親としては心配な部分もある。これは、交通機関との兼ね合いもあるので、ここだけで解決するものではない。

【座 長】

貴重な意見を頂戴した。今度は私立高校の立場から、思うところがあれば、御意見いただければと思うがどうか。

【委 員】

私立の高校には、学区がない。本校でいうと、北は鉾田、東は銚子、西は佐倉や酒々井、南は多古な

ど、様々な範囲から生徒がくる。通学の範囲というのは、親の仕事の都合によるところがある。スクールバスを出すことはできるが、一方向に通学バスを出しても一人しか乗車しないとなれば、通学バスは出すことはできない。

私立高校としての公立高校に対する思いとしては、公立高校の入学定員を減らしてほしいということである。基本的には、それが私学にとっては助かる。しかし、私たちの立場だけで声を挙げてしまえば、公立を希望する生徒は私立より多いため、困るという結論になる。

この協議会であえて言わせてもらえば、公立高校にどうあつて欲しいかといえ、繰り返しになるが、定員を減らしてほしいという点である。また、公立の学校を減らして欲しいところである。しかし、それでは成り立たないことも理解している。

また、私学も公立に対抗して、生き残っていくためには、特色を持たなければならない。しかし、他校と比べて、明確な特色の違いを打ち出すことは難しい。また、実際に実践するとなるとより厳しい。私学という立場から発言させていただいた。

【座長】

生徒が減っていくことは紛れもない事実である。私立という立場では、経営していかなければならないと点で、私立大学に勤務する立場としても納得できる。

【委員】

生徒が少ないのであれば、それに合わせて教員も減らさなければならない。文科省の定員によれば、1クラスで対応できてしまうこともあるが、進級する際に、クラス替えできる状況を残しておきたい。本校は長年、1学年2学級で対応している。また、生徒が減って教員の数がそのまま維持するとなると、厳しい状況になる。

【座長】

私も大学関係者であり、身につまされるところである。他にいかがか。

【委員】

高校受検をする生徒に志望理由を聞く機会があった。その生徒は、私立高校を希望していたが、その理由としては学校が綺麗だからということである。具体的には、トイレが綺麗だからということであった。施設の充実が大きな志望理由の要因になっていると感じた。

【座長】

私立大学でもすごく意識している。国立大学に勤務していたこともあるが、私立大学は施設へのお金のかけ方が全然違う。学生が大学を見学した際に、綺麗と思ってくれないと入学してくれない。施設の充実による効果はあると思う。しかし、県立高校となるとなかなか難しいところもあると思う。

【委員】

私が通っていた公立の高校とは違い、私立高校は非常に綺麗な校舎で、県立とは全く違うということに大変驚いた。

【座長】

話は変わるが、空港が活性化されるという点で商工の関係から見る効果や影響はどのように考えているかお聞きしたがいかがか。

【委員】

令和4年、成田空港の従業員の内訳としては成田市に続いているのが香取市である。第3滑走路ができることで大きな雇用が見込める。東側の地区としても期待している。また、空港周辺に物流倉庫ができる計画もあり、そういったことも含めて地元で就職してもらえると良い。

【座 長】

雇用が生まれるということで、そういった意味で関連した学びとして例えばロジスティクスに対応できる学びや先ほど上がった観光といった学びが香取地区の県立高校にあると良い。

【委 員】

その通りである。物流倉庫だけではなく、農振除外についても要望しているところである。

また、地元の商工団体や行政と連携して、どういう職種があるのか、どういう企業があり、どんな仕事をしているのかを小・中学生に知ってもらう機会があると良いと思う。それが一つの人口減少の対策にもなる。

【座 長】

商工の関係から御発言いただいた。香取地区は農業の関係も大きいと思うが、農業と空港の関係という点ではいかがか。

【委 員】

空港の活性化という点で空港での雇用は増えると思うが、農家は圧倒的に減少している。農協としてどのように携わっていくかという点もあるが、若者に限らず新規就農者等について様々な面から支援をしていければと思う。

また、空港の雇用の状況とは逆で、高卒の就職者が非常に少ない。農協としては危惧している所である。地域と交流しながら、いろんな仕事があるということを知っていただくようにPRしていけたらと思う。

【座 長】

委員の皆様から貴重な御意見をいただくことができた。

(3) その他

【座 長】

続いて、議事(2)の「その他」に移る。この場において、何か議題があれば、御提案願う。

(意見なし)

予定では次回が最終回となるが、次回の議題について事務局から何か提案はあるか。

《事務局》

次回の協議会の検討事項としては、適正規模に満たない高校の今後の在り方について、そのメリット・デメリットについて御協議いただきたいと考えている。県教育委員会の方として、郡部においては地域連携協働校という考え方を示しているところである。そういった説明を事務局よりさせていただき、香取地区の県立高校4校の今後のあり方について、適正規模・適正配置という観点で議論していただきたいかがいかか。

【座 長】

ただいま事務局より説明があった。次回の第3回については第1回、第2回の内容を踏まえて、適正規模・適性配置に関して協議するということではいかがか。

(意見なし)

特に御意見ないため、今回は適正規模・適性配置に関して協議することとする。

では、進行を事務局にお返しする。

第3回香取地区地域協議会 記録

- 1 日 時 令和6年2月28日（水） 午後2時から午後4時まで
2 場 所 みんなの賑わい交流拠点コンパス 研修室
3 出席者 14名／14名
4 概 要

（1）第2回香取地区地域協議会の記録（案）について

委員に確認し、承認

（2）香取地区の県立高校の適正規模・適正配置について

【座 長】

第1、2回では、「地域協議会の趣旨」、「県立高校改革推進プラン及び第1次実施プログラム」、「香取地区の県立高校の現状と課題」について事務局から説明があり、それに基づき「香取地区の県立高校の在り方」について、委員の方々から様々な御意見をいただいた。今回のテーマについては、「望ましい学校規模について」、「地域連携協働校に繋がる地域からの支援について」の2点において議論する形によるのか。

（意見なし）

ではその形で議論していく。議論の前に千葉県知事と香取地区4市町長の意見交換会が2日に行われているようだが、どんな話がされたか御存じの方はいるか。

【委 員】

意見交換会に随行をした。各市町で地域づくりが行われているが、今後どのようなことをしたいかについて意見交換をした。4市町ともに成田空港の機能強化に伴う地域の活性化や地域未来投資促進法による物流拠点としての企業立地、千葉県と香取地区で取り組んでいる農産物サツマイモの生産支援のさらなる拡充、東庄町からは佐原病院が所在する地域で、安心して生み育てられるような同院の産科再開についてなどに関して要望や意見交換を行った。

千葉県としても成田空港の機能強化というのは、この地域での一番の課題であり、取り組んでいくべきことであるため、一緒になって協議をしていくという話であった。

【座 長】

承知した。また、多古高校の地元パン屋と協力した商品の開発を行ったとあるが、評判はいかがか。また、今後の計画はあったりするか。

【委 員】

今年の初めにイチゴスムージーの販売を道の駅で行った。テレビでも取り上げていただき、タレントが試飲するなど話題になった。また、農業クラブが大学主催の発表会に出場し、準優勝にあたる賞を受賞した。農業科の教員が農業クラブの役員の生徒と一緒に熱心に活動しており、こういう運びとなった。

イチゴスムージーの企画後すぐに次の企画について考え、カボチャにしようと話が進んだ。協力していただいたパン屋は昼休みに学校でパンの販売をしてもらうなど、長年学校にも出入りしており、商品化についても快く承諾してくれた。また、道の駅での販売にあたっては多古町役場にも協力していただき、新聞記事だけでなくテレビのニュースでも取り上げられた。販売を2時間で設定したが、2時間経たずに完売した。先日も販売を行い、400個のパンを1時間経たずに完売した。宣伝の効果もあり、非常に良い取組だと思う。生徒も地元の方に喜んでもらえるのであればと一生懸命取り組んでいる。こういった農業クラブの取組により、多古高校を盛り上げていきたい。

テレビのインタビューの中で生徒が「農業高校の価値をもっと上げていきたい」と答えてくれており、

誇りをもって取り組んでいる姿が非常に印象的である。生徒が集まらないのが心配であるが、生徒が主体的に色々やっていることは、非常に良い取組だと思っている。

【座 長】

多古町役場にも関わっていただいたとのことで、良い評判になり継続的に続けていけたらより良い。生徒も注目されることで次も責任感を持って頑張れるという点でもいい効果がある。

道の駅の販売について多古町も協力したと話があったがいかがか。

【委 員】

先ほど話があったとおり、農業関係についてはアイデアを出し合い、学校独自の学習を進めていただいている。また、前回の協議会でも申し上げたとおり、町としても空港を核に発展を目指している。空港の開港以来、東側はなかなか発展していない現状があるが、現在進められている空港の機能強化や圏央道の開通、多古町を通る国道 296 号線に新たな IC ができる予定であり、この利点を生かした発展を求めている。道の駅の関わりや地域の個人商店も含め、多古高校との繋がりは町の発展を目指す上で欠かせないものである。

町は空港圏としての発展を求めていく中で、多古高校の必要性を感じている。今回議題であるように、3 クラスと縮小されている状況である。ただ、空港の機能強化はこれからで、従業員も大幅に増えていく中で、様々な業種が空港内にあり、空港に近い高校として特色ある新たな学校づくりが進められていくのであれば、東側の中心の高校になりうると思う。町も高校には金銭面も含めて支援している。県立高校のため、県全体のバランスはあるかもしれないが、町として支援できることはこれからも続けていく予定である。多古町の中学校から多古高校への進学率は3割程と高く、電車はないが限られた交通網の中で地元の高校に通えることや近隣の市町からはバス、オートバイ、自転車を使って通えるため、多古町の子供だけではなく、高校までつながった教育で地元から優秀な人材を輩出したいというのが町の考えであり、高校にもそれを求めたい。

【委 員】

今の話を聞いて思い出したが、知事との意見交換の日の午後に開催された香取地域副市町長等意見交換会の中で多古高校の話題になった。生徒数が減少していることから、空港の機能強化が図られる中で従業員のなり手がいないことを踏まえて、そういった職業を学べるカリキュラムができないかという話があった。

【座 長】

多古町としても多古高校のことを念頭に置いていることが分かる。多古高校をうまく活用し、活性化することで町の発展と地域の発展を図っていきたいということである。

貴重な意見を頂戴した。地元の状況や高校の取組について知ることができた。

では、1 つ目のテーマである「望ましい学校規模について」事務局から資料が出ているので、説明をお願いします。

《事務局》

資料1「香取地区に所在する県立高校の状況について」に基づき、募集学級数の推移や志願状況、地域連携協働校の内容について事務局より説明

【座 長】

事務局より説明をいただいた。この資料について質問はあるか。

(意見無し)

お聞きしたいが、資料の中学校卒業者数の推移について説明があったが、神崎町と多古町の減少率が他の市町に比べると低いと思うが、何か政策等の関係等の要因があるのか。

《事務局》

事務局の方からは数値のみになり、具体的な政策が行われたかどうかというところまでは把握していない。

【委員】

子育て支援策が拡充した効果ではないかと思う。また、新型コロナの関係で出産を控える等の影響はこの後に来ると予想されるため、5歳がピークで、これ以降の数値は減少しているのではないか。

【委員】

町内の中でも住宅開発が進んでいる部分や子育て支援策が少しずつ実を結んでいると思う。出生率はなかなか上がらないが、転入していただける若者世代等の影響が少しずつ数値に出ていると予想される。

【座長】

承知した。いずれにせよ4校の志願状況や香取地区の中学校卒業生数の推移を見ても厳しい状況である。第1回で説明があったと思うが、志願状況については茨城県からの進学も含まれるのか。

《事務局》

隣接県協定の関係から茨城県から進学することができる。佐原高校には25%程、佐原白楊高校には15%程、小見川高校には2、3%程の生徒が進学している状況である。

【座長】

進学者数の人数の割合に変化はないのか。

《事務局》

大幅な変化はないが、若干減少している。

【座長】

そう考えると、適正規模に満たしていない学校は多古高校であるが、長期的に考えると香取地区のすべての学校でより厳しい状況になると予想される。1学級40名という国の標準法の枠組みの中で考えた際に現在の学校規模が適切であるか、また、子どもたちにとって望ましい環境として、高校の最低限の規模はどの程度なのかなども含めて委員の方から御意見いただきたいがいかがか。

余りにも多すぎても教育が行き届かない面が出てくるし、少なくとも社会性が育たない面もあると思う。おそらく委員の方は、生徒数が多い世代だと思うので、その時の経験を思い出していただきたい。また、教育に携わっている方やお子さんがいらっしゃる方はその状況も踏まえた上で、適正規模について御意見伺いたい。

【委員】

公立高校に比べると私立高校の方が、生徒数が減ることに対して経営に影響するため、私立高校の場合は問題に直結する。生徒数が減ることは大変切実である。

【委員】

1クラスの生徒数の観点から考えると、現在の義務教育では35名でも多いと感じる。小学校では1クラス10名前後の学校もある。多ければ切磋琢磨できるが、個に応じた丁寧な指導をするには限界がある。以前、25名程の学級担任をした経験があるが、個人的には集団としてまとめやすく、やりやすかった。昨今、教員不足が叫ばれているが、学級経営も30名を超える生徒数では求められる技術や経験値も違うため、義務教育の観点からすれば30名弱が良いかと思う。かといって、10数名だと社会性がつかないかというところというわけではないが、ある程度の集団の中で切磋琢磨することや、社会に出てからのことを考えると、落としどころとしては30名弱がバランスのとれた教育ができる環境になりやすいと思う。

【委員】

多古高校は、現在3クラスでかつ定員の充足率が2/3を切っているが、学校は問題なく運営できている。かえって、生徒によく目が行き届いており、良い教育ができていると思う。40人学級に関しては、現場では昔から多いと言われていることである。教員の配置についても、学級規模で配置されるため、

生徒が少ないからといって減るわけではない。欲を言えば、人数が多ければ部活動等も盛り上がるため良いと思う。4～6学級となっている適正規模については、各クラス40名であれば3学級でも良いかと個人的には思う。

個人的な意見ではあるが、以前勤務していた学校では、生徒数が減ってもクラス数は減らなかった。学力に差がある生徒が入学し、その学校で求められる教育を提供しづらくなる。また、適正規模は致し方ないことだと思うが、勉強が苦手な生徒の多い学校の学級数を減らされると、そういった生徒の居場所がなくなってしまい良いことではない。生徒が集まる学校の学級数を減らさないではなく、割合に応じて減らしていく必要がある。

【座長】

実際に働かれた経験から貴重な御意見を頂戴した。学級数の減らし方に関しても多方面から議論して決めていく必要があるとの御意見も頂戴した。話にも出てきたが、部活動や生徒会活動という観点からはどうか。

【委員】

部活動について、多くの高校においては野球の連合チームが普通になってきている。バスケットボール等でも、他の学校とチームを作り、試合に出るなどの学校も増えてきている。部員が集まらないことは、どの学校でも苦勞していることだと思う。高校の部活動については、完全に外部に移行となるのは先の話だと思うが、入学したのに部活がないというのは避けたいと感じている。

生徒会活動については何とかなっている。また、農業クラブの委員についても人数が少なくても委員を選出できている。

【委員】

本校の生徒数は非常に少なくなっており、中学校で欠席が多かった生徒も多いが、そういう生徒が生徒会や部活動の部長を務めるなど、色々な場面で活躍している。また、高校ではほとんど休まず生活している。すべてうまくいっているわけではなく、心の中で様々な葛藤をして生活していると思うが、教員が的確に把握し、支援してあげられるのであれば、人数が少ないことはある意味メリットな面ではないかと思う。また、人数が少ないからこそ、生徒の気持ちの変化に教員もクラスメイトも気が付き、声をかけられる。

運動部においては、団体競技に関しては厳しいが、卓球やバドミントンなどなら少人数でも問題なく活動できる。また、文化部に関しても少ない人数でも楽しく活動している。

【座長】

人数が少ないからこそ、中学校ではうまくいかなかった生徒も立場が人を育てる環境にもなりえる。小規模校や少人数に対して、デメリットだけではなくメリットについても多くの意見を頂戴することができた。

続いて「地域連携協働校に繋がる地域からの支援について」議論したいと思う。事務局より、通学が著しく困難な地域、地元からの進学率が高い、地域との協力・支援を得つつ地域一体となった育成といったことが地域連携協働校の位置づけの基本的な考え方になるという話があった。地域からの協力・支援についてイメージが湧きづらい部分だと思うが、事務局より説明はあるか。

《事務局》

岩手県の住田高校では、町に唯一の高校への支援として、給食の無償提供や通学費の補助、英語外部検定の検定料の補助などを実施している。また、教育コーディネーターを配置し、まちづくりに関する学びの支援を行い、町と連携した取組を行っている。もう一つの取組の事例としては、神奈川県 of 山北高校では学校、行政、町民、企業等が参加するコンソーシアムを構築し、総合的な探究の時間の中でまちづくりや町の課題や魅力について学び、町と協力した魅力発信を行っている。地域との協力や支援に

ついて参考になる内容と考える。

【座 長】

事務局より、こうした町と一体となった協力や財政的な補助等が地域連携協働校の位置づけの参考になるとの説明があった。10年、20年後といった長期的な視点で考えた際に、地域を担う人材を地元でどう育成し、どう留めるかが重要になってくる。地域の実情にあった支援とはどのようなものなのか。また、地域連携協働校の在り方や香取地区での設置になどについても御意見いただきたい。

例えば、多古高校への地元からの進学率が3割程との発言もあったが、その数値は全体的に見たときには高いものなのか。また、通学が著しく困難な地域とは具体的な距離等はあるのか。

《事務局》

4学区から9学区の郡部の高校での地元からの進学率の平均値は約12%となっている。このことから、多古高校については、非常に高いと考えることができる。また、通学が著しく困難な地域については、例えば最寄り駅から遠いことなどが挙げられる。

【委 員】

地域連携協働校の在り方については、まさに多古高校そのものだと感じる。地域連携協働校の考えとして「地域の協力・支援を得つつ地域と一体となり」とある。町としても、財政的な支援をしながら、高校と共に町の発展を考えており地域との連携も深い。また、「地域ならではの資源」についても、空港に隣接する地域にあたることから、地域ならではの資源とは成田空港だととらえることができると思う。そういう中で、より特色のある学習プログラムを作っていける高校であり、近隣の高校と連携した学習もできていると思う。

空港の機能強化については供用開始を目指しているのが令和10年、圏央道は令和7年に一部開通し令和8年に全区間開通の予定となっている。短期間で大きく発展することは考えられないため、これらの効果が町に伝わり、それにあわせて一つ一つ町や地域が発展していくことになると思う。

県立高校の配置については、千葉県全体で考えていただきたいが、香取地域については今年の受験を見ても佐原高校と佐原白楊高校への志願者が定員を超えている。佐原高校は進学を目指す生徒が多くいる。また、公務員の採用試験に佐原白楊高校の生徒が多く受験している。佐原白楊高校への進学を選んだ理由として、公務員に特化した授業が受けられるからと聞いたことがある。

子供たちは将来を見据えた中で高校を選択することは当然ある。空港という大きな資源を考えれば、香取地区の発展を踏まえた連携ができるような多古高校になってもらいたいし、県にもそういう高校づくりをしていただきたいと思っている。また、地域連携協働校というのが協議の1つとなっているが、多古高校はまさしくその1つになり得ると思う。

【座 長】

多古町の場合は、成田空港の新しい滑走路へのニーズや高速道路の関係から物流拠点に対しての魅力も将来的には考えられる。例えば、成田空港の職員へのニーズが高まった場合に、小・中学校や高校から見学のような支援や連携はできるのか。

【委 員】

成田空港への見学は小学校ですで行っている。多古高校については、学校運営協議会の中で成田空港の職員の方を派遣していただき協議等をしている。また、近隣の市町については成田空港からの支援を受けている。

財政支援については後援会を通じて150万円の支援をしている。具体的な利用方法は決めていないため、例に挙げたような検定の補助なども学校と相談した上で可能かと考える。金額についても必要性が高まれば検討の余地もあるのではないかと考える。

空港については従業員が4万人から7万人に増えることが計画されており、その波及効果で町の就職

場所が増える。高校から直接就職することや大学進学等をしてから地元に戻り就職するなど、優秀な人材を輩出することは町としても狙いであり活性化にもなる。そういったことも含めて、財政的な支援や地域との連携を今後も強化していきたいと思う。

【座 長】

物流拠点や成田空港への就職と考えると、それに合わせた高校での学びがあればよりよいということか。

【委 員】

それぞれの学校で特化したものがあるとイメージもしやすい。多古高校にもあればよりよいと考える。

【委 員】

管内の小・中学校の様子を見させていただいている立場から話をすると、少人数の学校も多くある関係からか、香取地区の小・中学校の子どもたちは学校の中での存在感が高いと思う。地域人材としての役割を持っていることや大切にされていることもあり、のびのびとして安心して自分らしさが出せる子供たちや小・中学校が多い。全員というわけではないと思うが、自己肯定感も高いのではないかと感じている。

そういった中学生が進学先として高校を選ぶときに、中学生の視点になって考えると、香取地区の学校では難関大学への進学を目指す学校や、資格取得や知識をさらに獲得できる学校、就職を見据えた学びができる学校など、それぞれに特徴がある。ある程度目的を持っていれば高校を選ぶうえで良い地区だと思う。そのためにも、小・中学校で将来どんなことがしたいのか、どんな仕事に就きたいのかという将来を見据えたキャリア教育や地元の産業を生かした体験学習等を更に行っていく必要があると痛感した。

【座 長】

現状でも多様な学びに対応できる状況ではあるが、小・中学校も高校進学を見据えた学びが必要だという御意見をいただいた。また、20年、30年後を見据えた学びにも対応していく必要もある。

【委 員】

高校へ進学するにあたっては、通学するための交通手段が1つの大きな条件になる。多古高校への通学手段としてはバスが基本となると思う。多くの保護者が送り迎えをしていると聞くと、毎日のことであり相当な負担になる。また、地元からの進学であれば自転車で問題ないかもしれないが、近隣の市町村からの通学となると自転車では厳しくなる。横芝光町からのバスの路線がなくなったと聞くと、そこから通おうとする子供たちの選択肢として多古高校が外れてしまう恐れがある。安易な発想ではあるが、多古町としてそういった路線や通学を補うようなコミュニティバスがあればよいと思う。

また、多古町は空港の機能強化からの発展が今後大きいので、普通科に関連したコースや特色のある学びを設置することで、多古高校に進学すれば空港関係の仕事に繋がるという道筋ができるのではないかと。

【委 員】

多古高校に関しては、話に挙がっている空港関連はもちろん、農業関係についても人が集まってもらいたいと思う。香取地区では農業の学びは多古高校しかないため、多古高校の園芸科にも力を入れられれば良いと思う。本来、農業へのなり手が増え、自給率が上がることが良いはずだが、必要とされているのかという疑問に思う部分もある。農業を学ぶ環境を整えたところで、一般的に働くよりも稼げるイメージも沸かない。

【座 長】

千葉県は農業に関しても魅力がある。また、東京都の消費を大きく支えているのは千葉県である。香取地区は特に農業は大きな魅力であり売りでもあると思う。農業の担い手を育てる学校がないと途絶え

てしまう。

【委員】

そういった意味でも、多古高校の園芸科は香取地区にとっては非常に重要である。ただ、農業はある程度大きい規模でやらないと成立しづらくなり難しい部分でもある。より重要性が高まると良いと思う。

【委員】

香取地域や多古町において農業というのは切っても切れない。また、多古高校もなくてはならない存在だと日頃から感じている。香取地域としては、サツマイモについて輸出の方にも特に力をいれており、多古米にも力をいれているところである。現在、多古高校からそのまま就労する農家の息子さんもしれば、営農指導員になる方もいると聞いている。町や地元と連携した様々な取組を経験した上で、自分自身の適性を踏まえて興味を持った職業に就職することも考えられると思う。

また、半導体の分野で多くの雇用が見込まれており、専門的な技術を持った人材の育成を早急にやらなければならないというニュースがある。物流拠点や空港の機能強化の関わりにおいても、高校としてどのような専門的な学びが必要なのかを研究し、多古高校がなくてはならない存在になればと思う。

【委員】

教育に関する専門の委員の方から意見を伺っていて、現場で教育をされている方や教育を受けている子供たちからの意見を聞くことも非常に大切だと思う。

また、全国的に見ても大廃業時代と言われる中で、香取地区においては厳しい人手不足や賃上げという現状があり、高齢の事業者が廃業を検討している。人口が減っている中で、どのように地域を回していくかということと高校の問題はリンクしていると思う。ここまできると、その地域の課題を共同で解決していくことを目的としたコンソーシアムが必要になってくるのではないかな。

我々もハローワークや行政との連携も始まっており、教育現場も含めた形で地域連携がよりできれば、良い知恵を出し合うことで一歩前に踏み出せるという思いがある。

【座長】

1月からスタートした地域協議会も今回で最後となる。委員の方で議題について言い残したことなどはあるか。

【委員】

適正規模・適正配置とは違う視点になるかもしれないが、高校生に「地元に残りたいか」や「地元に戻ってきたいか」というアンケートを行うと、「帰ってきたい」や「住み続けたい」という回答の割合が低い。地域をより知ってもらおうと、佐原白楊高校と協力してカリキュラムを組み、色々と取組を行った結果、若干ではあるがその割合が上がった。

確かに学校の適正配置も必要ではあるが、子どもたちは地域の宝であり、賑わいの創出にも非常に大切である。将来の地域を担う人材として、そのような観点の教育に力を入れていただきたい。また、その教育の中で、必要であれば地域も一体となって取り組んでいけたらと考えている。

【座長】

他に意見はあるか。

(意見なし)

委員の皆様から貴重な御意見をいただくことができた。では、これまでの協議を踏まえた内容を整理したいと思う。

第1回では、県立高校改革推進プラン及び第1次実施プログラムについて、香取地区の県立高校の現状について事務局より説明があった、第2回では、香取地区の県立高校の在り方について御意見いただき、新たな学びの提案として、豊富な観光資源を活用した観光に関するコースや成田空港の機能強化とその周辺の物流に関連したロジスティクスに関するコースなどの御意見をいただいた。第3回では、香

取地区の県立高校4校の現状と人口減少を踏まえて適正規模・適正配置について御意見いただき、大勢の意見としては、小規模でもある程度であれば問題はないという御意見であった。また、多古高校についても、香取地区にとって重要性が大きいという各委員の方から御意見をいただくことができた。

(3) その他

【座 長】

続いて、議事(2)の「その他」に移る。この場において、何か議題があれば、提案をお願いする。

(意見なし)

以上で議事を終了する。全3回にわたり円滑な協議に御協力いただき感謝する。

では、進行を事務局にお返しする。